

— アンケート調査より —

○水澤 真紀      小林 茂雄      （共立女大）

[目的]男性の通勤着スタイルとワイシャツとの関連について、観察法による調査結果を第49回大会にて発表した。今回は前報に続き、質問紙によるアンケート調査によって、スーツおよびワイシャツ着用に内在する要因を明らかにする。

[方法]平成8年11月より平成9年11月に行った男性の通勤着スタイルの観察法による定点観測調査で、ビジネス地域である丸の内と中・小企業、商業地域である錦糸町、蒲田、工業地域である豊洲という地域の比較、および業種による比較を試み、スーツスタイルとワイシャツにおけるちがいが明らかとなった。またこれらのちがいには年齢という要因が深く関係していることが分かった。そこで、季節を問わずスーツの着用が最も多く、代表的なビジネス地域である丸の内に勤める社会人男性を対象に、葉書大の質問紙を用いた配票留置法による調査を行った。調査時期は平成9年11月下旬より12月上旬である。配票は、70%を通勤時に街頭にて配布し、有効回答は224票、回収率は55.6%である。質問は、スーツ着用、白無地ワイシャツ着用の頻度、仕事における場面による白無地ワイシャツ着用の度合い、自分の服装が他者から見られること、すなわち服装の公的自己表現性と年齢、職種、業種との関連をクロス集計、平均値の差の検定、分散分析により分析する。

[結果]スーツの着用は週平均4.85日であり、白無地シャツの着用は3.08日、白無地以外のシャツ着用は1.98日であった。統計的検定により、白無地ワイシャツの着用日数に年齢、業種によるちがいが見られた。特に製造業においてのスーツ着用の低さとばらつき、また中高年層における白無地ワイシャツの着用度が高い事が顕著であった。